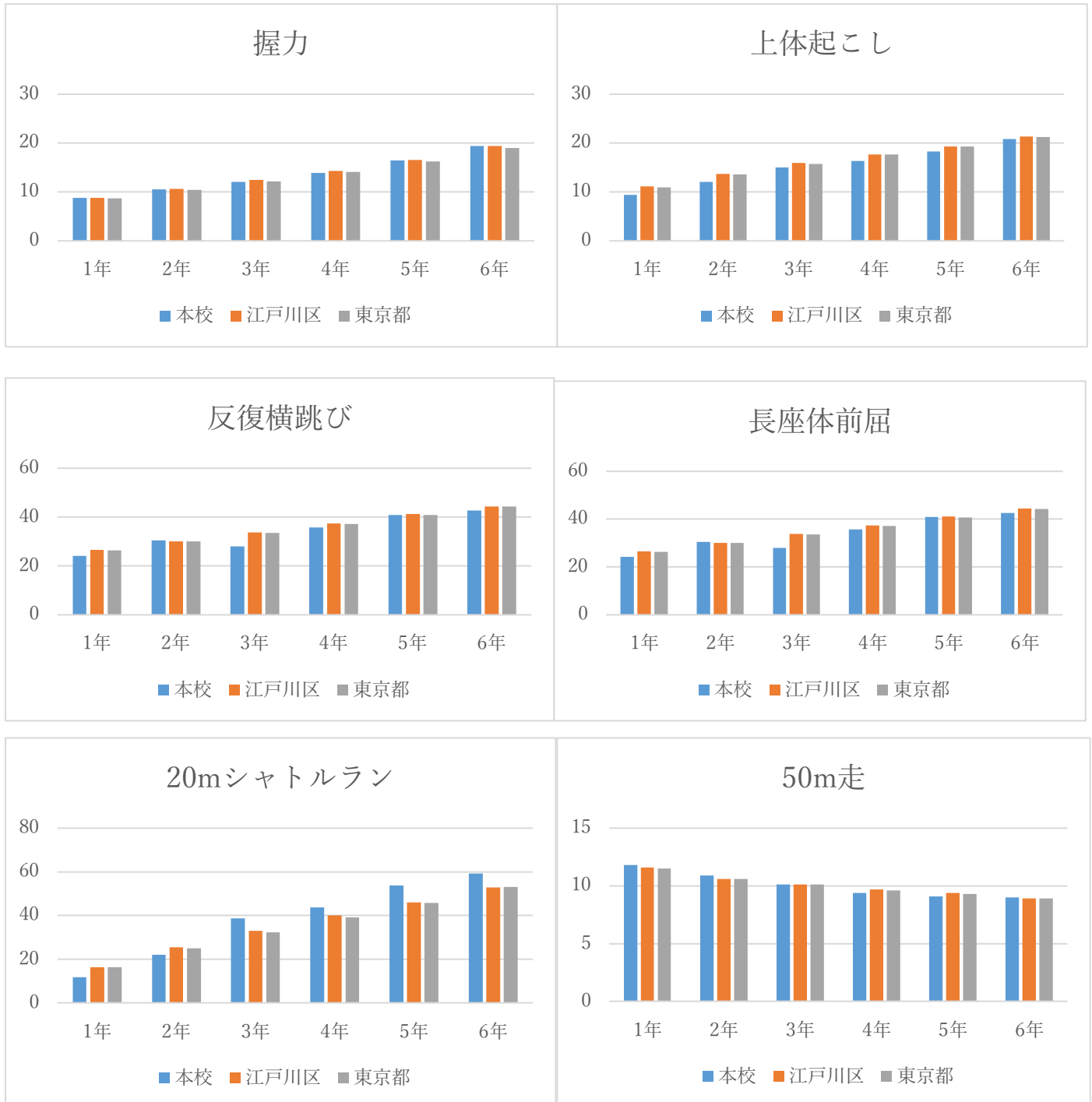


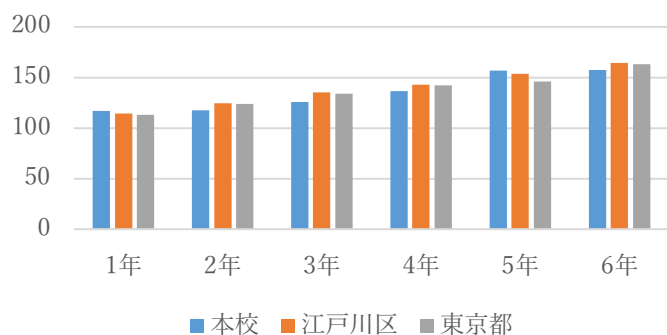
令和5年度体力測定結果分析

1. 各学年の結果

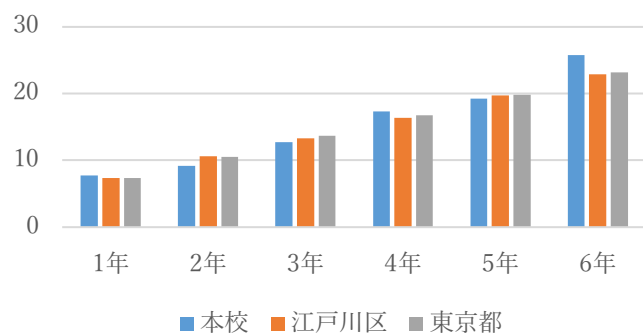
【男子】



立ち幅跳び

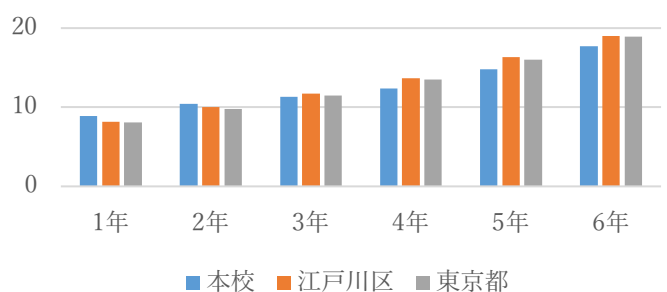


ソフトボール投げ

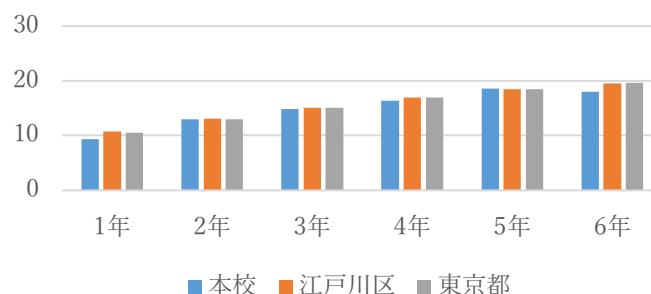


【女子】

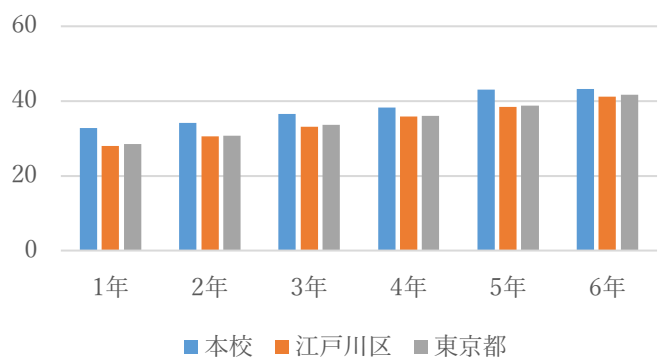
握力



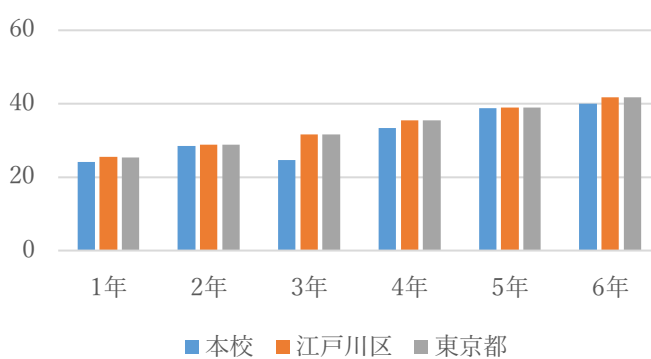
上体起こし



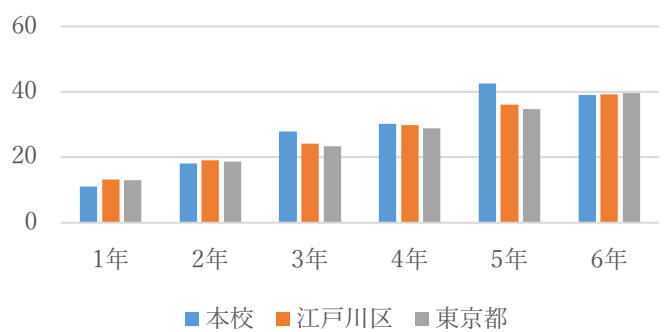
長座体前屈



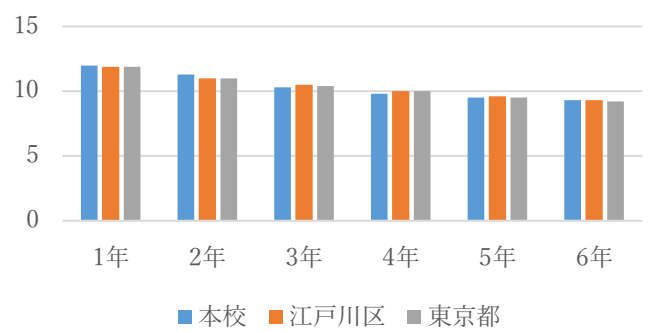
反復横跳び

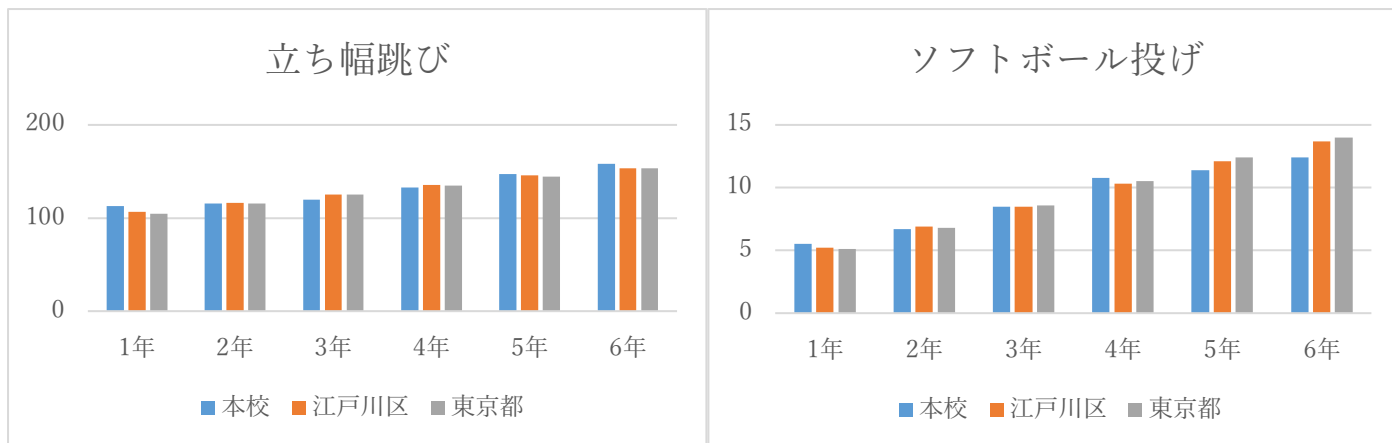


20mシャトルラン

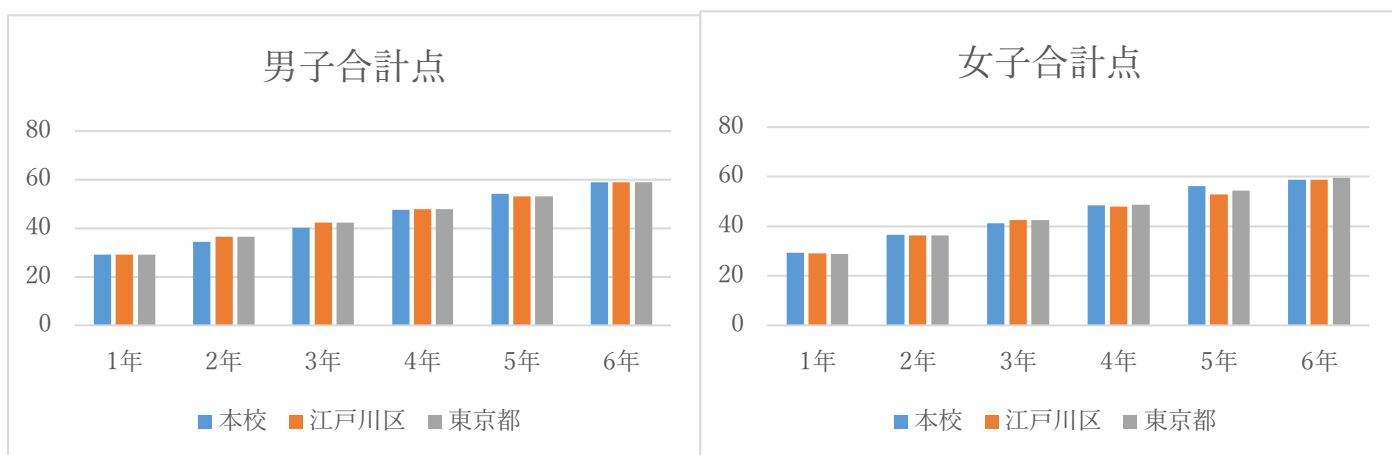


50m走





【合計点】



2. 考察

《結果の分析》

本校男子児童の各種目の結果を、江戸川区平均、東京都平均と比較してみると、20m シャトルラン、上体起こしにおいて1・2年の低学年児童は平均値より低く、3～6年生児童の結果は平均を上回っている傾向がみられる。中でも、20m シャトルランでは、3～6年生の平均値が区内、都内平均値より大きく上回っている。6年男子児童に関しては、ソフトボール投げの記録平均値も、区や都の平均値を上回っている。

本校女子児童の結果を見ると、すべての学年において長座体前屈の平均値が区、都の平均値を大きく上回っており、柔軟運動が得意な傾向にあると考えられる。一方、3～6年児童に関しては、握力の平均値が区の平均より大きく下回っている。その他の種目でも、区や都の平均値を下回っている。

最後に、合計点においては平均値の大幅な誤差はなく、平均的な結果となっている。

《改善策と今後の取組み》

男女ともに、握力・反復横跳び・50m 走の記録を伸ばせるように、以下の通り練習を行っていく。

握力に関して、「握る」動作を日常的に行えるように、指導を行う。体育の学習の際、学年の発達段階に応じて道具の準備・片付けを積極的に行う指導内容を取り入れる。本校校庭には、鉄棒、うんてい、登り棒、登りロープの4種遊具が設置されている。休み時間に触れる機会を増やせるよう、遊び方・取扱い方の表示を作成し、児童に興味関心をもたせる。

反復横跳びの記録を向上させるためには、敏捷性を向上させることが重要である。そこで、体育の学習の導入部分でゲームを行い、敏捷性を鍛える。他にも、たてわり遊びや休み時間を校庭で過ごし、走る、曲がる、止まるなどの動作を多く行うことで向上につながると考える。外に出て遊ぶように学校全体で声をかけていく。

50m 走の記録をよくするためには、スタートが重要であると考え。計測を始める前には、最初の5歩を意識させ、足の回転を速くし、スピードに乗るまでの時間を短くすることを指導する。児童自身では気付くことが難しいため、タブレットを活用しフォームを撮影し振り返る学習活動を取り入れる。